Infoseek検索機能搭載のためのカンペ

1. dic\_main.dic内、「MouseDoubleClick\_0」の中を「Onsearchopen」に書き変える
2. 同辞書の一番最後に、以下の内容を書く。

Onsearchopen

{

 "\![open,inputbox,infosearch,-1]\0\s[0]あ、\w7検索ですか？\n\w7ならここに何か卑猥な言葉を入れてください。\e"

}

infosearch

{

 if reference[1] == ""

 {

 "\![open,inputbox,infosearch,-1]中身空っぽじゃないですか、\w7\n意地でも検索させますからね。\w9\nもう一回お願いします。\e"

 }

 else

 {

 \_in=reference[1]

 \_url=GETSTRURLENCODE(\_in , 1 ) //最新版ではSTRENCODE(\_in,1,’url’)

 "\0\s[0]%\_inで検索します。\w9\j[http://search.www.infoseek.co.jp/Web?qt=" + %(\_url) ]\e"

 }

}

# 【YAYAを全く知らない人向けの辞書内容解説】

* On~
新しい機能を開発しても、YAYAの場合行頭にこれをつけてないと機能しません（一部例外除く）。里々などで言うところの「＊なにがし」ポジションと思ってください。
* if , else
英単語の「もしも」、「それ以外」。仲間に「elseif」もありますが、今回は使っていません。いわゆる「条件付け」を行うためのもので、今回は「inputboxの中身が空っぽなら（<<if reference[1] ==”” {～}>>）これを出してね、そうでなければこっちのトークを出してね（<<else{～}>>）」という具合に使いました。
* \_in = reference[1]
この文章は、「変数\_inはreference[1]と全く同じ内容だよ」という意味合いを持ちます。。また、「\_in」の\_が持つ意味は、「この変数は一時的にしか使わないから、使ったらすぐに中身を捨てるよ」という意味です。一回だけの検索結果を永続して保存しても意味がないので、今回は\_inを使っています（\_urlも同じく）。
* GETSTRURLENCODE //最新版ではSTRENCODE
YAYAがSHIORIとして持っている能力＝「システム関数」の一つで、これを使うと入力した単語がURL用の文字列に変換されて返ってきます。これらのシステム関数の数々は他にもあります。「YAYA リファレンス」でGoogle検索かけると幸せになれるかも。